

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	特進文系	2	平山
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版), 『2027共通テスト対策問題集Vol.4国語現代文』(河合出版) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いっずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いっずな書店)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)</p> <p>情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。 ・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。 ・隔週で『評論速読トレーニング2000』を実施する。 				
家庭学習	学習内容と進め方	漢字や現代文単語を繰り返し覚える。演習問題を解いた後の復習を適宜行うこと。			
	学習の目安時間・分量	単語は隙間時間を使って覚えること。文章問題の復習については時間がかかっても必ず全問行うこと。			
	学習状況の確認方法	定期考査前後で確認する。詳細は授業内で指示する。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり	各自新書を読む機会を設けるようにすること。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1「文化が違う」とは何を意味するのか?	論理的文章の理解
	5	問題演習	げんたんp8~p117 TOP2500全範囲
		中間考査	
	6	2「である」と「する」こと	論理的文章の理解
	7	問題演習	げんたんp118~p210 TOP2500全範囲
	7	期末考査	
2	9	3 人はなぜ働かなくてはならないのか	論理的文章の理解
	10	問題演習	TOP2500全範囲 げんたん全範囲
		中間考査	
	11	4 顔の所有	論理的文章の理解
12	問題演習	TOP2500全範囲 げんたん全範囲	
	期末考査		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	文学	特進	2	小平
教科書	数研				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能				
	語彙、文学史				
	観点② 思考力・判断力・表現力 心情理解、象徴表現の理解				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 小テストの取り組み				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点①				
	語彙、文学史				
	観点② 表現				
	観点③ 小テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	文学を愛する心の醸成				
家庭学習	学習内容と進め方	各自入試問題を解く			
	学習の目安時間・分量	週に一題			
	学習状況の確認方法	ノートに解いて提出			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		<ul style="list-style-type: none"> 梶井基次郎「檸檬」 授業者作成のオリジナル近現代文学史プリント 松浦寿輝、坂口安吾、今福龍太、坪内稔典など入試問題に出題された文芸批評(明治大、早大、国公立など) 	文学的文章の読解
2		入試問題演習	入試問題演習
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	古典探究	特進文系	3	大須賀
教科書	『古典探究』				
副教材	『古典単語330』『古典の手引き』『古典の手引き 定着ノート』 『古典探究 準拠ワーク』『共通テスト重要問題演習』				
評価基準	観点① 知識・技能 単語、文法、修辭法、古文常識を理解し、身につけること。訓読、句法を理解し、身につけること。文脈に即して語句の意味を正確に捉えることができること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 単語や文法を用いて現代語訳ができること。句法を理解した上で、漢文の意味が取れることができること。作品の主題、登場人物の心情を読み取ることができること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 工夫が見られるノートを提出。しっかり取り組んだワークや課題。発言や発表を含む授業姿勢。文法、句法、単語の小テスト。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識				
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解				
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題(小テスト) ④授業姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	3年次では、1、2年次に学習してきた知識や技法を定着させて、入試問題に対応できる学力を身につけていく。難しいと感じる入試問題も積極的に扱う。諦めずに考え抜く姿勢が求められる。				
家庭学習	学習内容と進め方	出来なかったことを次出来るように復習する。入試本番で同じ問題が出題されたら、絶対に落とさない意識で勉強してください。			
	学習の目安時間・分量	出来ないものが出来るようになるまで。			
	学習状況の確認方法	入試問題を解いてください。			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	受けそうな大学の過去問を借りて取り組む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		読解問題の演習 文法や句法の確認	入試問題を扱う
2		読解問題の演習 文法や句法の確認	入試問題を扱う
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	国語選択	特進文系	3	下園
教科書	なし				
副教材	これまで使ってきた文法・単語などの教材を用いる 基本は自主作成プリント				
評価基準	観点① 知識・技能 入試国語に必要な基礎知識を習得する				
	観点② 思考力・判断力・表現力 入試国語の問題に対応できる読解力、記述力を習得する				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 多くの過去問題を解く				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 基礎知識 (文法・漢字・単語)				
	観点② 読解問題への対応				
	観点③ 授業内復習テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	本授業では入試国語を解く上で必要な知識を習得し、その基礎を土台として共通テストをはじめ志望校の入試問題に対応できる力をつける。				
家庭学習	学習内容と進め方	受験勉強			
	学習の目安時間・分量	他の科目との兼ね合いを意識しながら受験勉強を進める。			
	学習状況の確認方法	定期考查および授業内テストや過去問題			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要な過去問題を借り、早めに対策を行うこと。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	ガイダンス	受講者の志望校の確認と進め方
	5月	古典文法・古文常識	ダイジェスト的におさらいをし、実践トレーニングを行う。
		中間考査	
	6月	漢文句法・漢文常識	ダイジェスト的におさらいをし、実践トレーニングを行う。
7月	現代文単語・テーマ学習	単語帳を用いて評論文のテーマ学習と入試問題演習	
	期末考査		
2		入試問題演習	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴公民	世界史発展	特進	5	山本
教科書	小説 世界史探究 (山川出版)				
副教材	詳説世界史図録 (山川出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、基本的用語・地名を理解、整理することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 課題を把握し解決について構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それら表現する力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 歴史に対する理解、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて理解し学ぶ姿勢を持つ。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 用語・人名・地名など学習に必要な知識を問う。				
	観点② 資料等についての正誤判断、年代の推移、論述など思考・判断を問う。				
	観点③ 授業に参加し、学ぶ姿勢や課題への取り組み等を評価対象とする。				
授業のねらい・進め方・注意点	第二次世界大戦以降、現代史を理解し、古代からの繋がりを持てるよう授業を行う。基本的には講義形式。現代史はプリント教材も使用する。				
家庭学習	学習内容と進め方	週に5時間の授業があるので、授業中の備忘録をもとにその日のうちに復習することを勧める。			
	学習の目安時間・分量	1時間の授業に対し、30分程度。			
	学習状況の確認方法	模試の受験。また各自のレベルに合わせた問題集、一問一答など「忘れてしまうこと」を前提に問題を解く習慣をつける。			
	成績評価との関係	授業を受けただけでは、定期考查でも模試でも結果は出ない。日頃の家庭学習は成績にあらわれる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	授業中に図書室資料を紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	小説 世界史探究 (山川出版) 詳説世界史図録 (山川出版)	<ul style="list-style-type: none"> ●第14章 3 東アジアの激動 ●第15章 帝国主義とアジアの民族運動 ●第16章 第一次世界大戦と世界の変容 ●第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序 第二次世界大戦の終了まで 	
	5	中間考査		
	6			
	7	期末考査		
2	9	中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ●第18章 冷戦と第三世界 ●第19章 冷戦の終結と今日の世界 ●現代史の学習を継続 	
				10
				11
	12	学年末考査		
3				

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	日本史発展	特進 文系	5	小倉
教科書	山川出版 詳説日本史探究				
副教材	帝国書院 日本史通覧 啓隆社 日本史重要語句 Check List				
評価基準	観点① 知識・技能 歴史事象や歴史用語を時代の流れに即して習得することができるか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 歴史事象の理由を探究することができるか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 自ら進んで授業動画や副教材を進めることができるか。 自ら進んで課題に取り組んでいるか。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内容を中心に教科書、チェックリスト、プリントから出題				
	観点② 授業内容を中心に教科書、プリントから出題				
	観点③ 授業末課題と授業動画取り組み状況の提出				
授業のねらい・進め方・注意点	世界の中の日本を意識し、他国との関連の中から動く歴史であったり、日本古来の特徴を他国と比較したりしながら展開していく。歴史事象を単なる暗記事項として扱わず、エピソードや流れの中での理由や展望とともに述べながら、歴史を語る生徒の育成に努めたい。				
家庭学習	学習内容と進め方	日本史重要語句チェックリストを進める。日本史講義動画の視聴を進めていく。			
	学習の目安時間・分量	1日1～2時間程度			
	学習状況の確認方法	定期考查の得点具合、および提出物			
成績評価との関係	チェックリストの出来具合は観点1に、日本史講義動画の視聴は提出物として観点3に反映される。				
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 プリント	中間考查まで：飛鳥文化～桃山文化 いわゆる「日本らしい」という文化を古代・中世の文化史から学ぶ。
	6	教科書 プリント	期末考查まで：元禄文化～戦後文化 日本の文化が形成されつつも近代に入って西洋化と競合していく様を学ぶ。
	8	教科書 プリント	夏期講習：江戸後期の復習 2学期に近代史の復習をするにあたっての助走として幕末期の復習。
2	9	教科書 プリント	中間考查まで：明治維新～大正時代 2年次の1周目では踏まえられなかった細かい事象まで踏み込みんだ2周目の日本史を展開していく。
	11	教科書 プリント	期末考查まで：昭和・平成 主に外交関係や経済史を中心としながら、戦後史も扱って細かに復習をしていく。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	地歴選択(日本史)	選抜 文系	2	誉田
教科書	山川出版 詳説日本史探究				
副教材	帝国書院 日本史通覧 啓隆社 日本史重要語句 Check List				
評価基準	観点① 知識・技能 歴史事象や歴史用語を時代の流れに即して習得することができるか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 歴史事象の理由を探究することができるか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 自ら進んで授業動画や副教材を進めることができるか。 自ら進んで課題に取り組んでいるか。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点① 学年末50% + 観点② 学年末5% + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内容を中心に教科書、チェックリスト、プリントから出題				
	観点② 授業内容を中心に教科書、プリントから出題				
	観点③ 授業末課題と授業動画取り組み状況の提出				
授業のねらい・進め方・注意点	世界の中の日本を意識し、他国との関連の中から動く歴史であったり、日本古来の特徴を他国と比較したりしながら展開していく。歴史事象を単なる暗記事項として扱わず、エピソードや流れの中での理由や展望とともに述べながら、歴史を語る生徒の育成に努めたい。				
家庭学習	学習内容と進め方	日本史重要語句チェックリストを進める。			
	学習の目安時間・分量	1日30分程度			
	学習状況の確認方法	定期考查の得点具合、および提出物			
	成績評価との関係	チェックリストの出来具合は観点1に反映される。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 プリント	中間考查まで：占領期～55年体制 GHQの占領政策の様子と、中国での内戦が占領政策の転換に影響したことを学ぶ。
	6	教科書 プリント	期末考查まで：60年安保～平成 高度経済成長の様子と、成長を果たした日本と国際社会との関係を学ぶ。
2	9	教科書 プリント	中間考查まで：中世 問題演習をベースとしながら、2年次に習った中世の日本史を復習する。
	11	教科書 プリント	期末考查まで：近世 問題演習をベースとしながら、2年次に習った近世の日本史を復習する。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴公民	地歴選択(世界史)	特進	2	山本
教科書	小説 世界史探究 (山川出版)				
副教材	詳説世界史図録 (山川出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、基本的用語・地名を理解、整理することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 課題を把握し解決について構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それら表現する力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する理解、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて理解し学ぶ姿勢を持つ。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 用語・人名・地名など学習に必要な知識を問う。				
	観点② 資料等についての正誤判断、年代の推移、論述など思考・判断を問う。				
	観点③ 授業に参加し、学ぶ姿勢や課題への取り組み等を評価対象とする。				
授業のねらい・進め方・注意点	古代から復習すること、問題演習を行うことを中心に授業を進める。				
家庭学習	学習内容と進め方	忘れていた昨年度の授業内容について、備忘録を作成する。			
	学習の目安時間・分量	1時間の授業に対し、60分～2時間程度。			
	学習状況の確認方法	模試の受験。また各自のレベルに合わせた問題集、一問一答など「忘れてしまうこと」を前提に問題を解く習慣をつける。			
	成績評価との関係	探究とは異なり、定期考查は授業内に行う。また探究と合わせて家庭学習を継続することが成績向上につながる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	授業中に図書室資料を紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	小説 世界史探究 (山川出版) 詳説世界史図録 (山川出版)	●古代史の総復習 教科書第一章
	5	中間考査	●中央アジアと中国史 (秦漢) ●南アジアと東南アジア 教科書第二、三章
	6		●西アジアと地中海周辺国家 ●イスラーム教とヨーロッパ世界 教科書第四、五章
7	期末考査		
2	9	中間考査	●イスラーム世界と西アジア ●イスラーム世界と西アジアヨーロッパ世かの変容 教科書第六、七章 ●東アジアとモンゴル帝国
	10		●大交易時代 ●アジア諸帝国 ●近世ヨーロッパ 教科書九、十、十一章
	11		教科書第十二～十四章
		冬期講習	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	特進文系	3	芳野
教科書	実教出版『詳述 政治経済』				
副教材	実教出版『詳述 政治経済 演習ノート』 山川出版社『大学入学共通テストへの道 公共、政治・経済 2026-27年用』 担当者作成のテキスト				
評価基準	観点① 知識・技能 ○現実社会の諸事情をふまえて、国内・国際経済に関する概念や理論などの理解を深めている ○国内・国際経済に関する諸資料から、課題解決のために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る能力を身に付けている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○市場や財政、金融といった経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、国際経済において果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習に対する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしている				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○経済活動と福祉の向上との関連について思考し、状況に応じた適切な判断ができる ○国際経済において日本が果たすべき役割を考察し、状況に応じた適切な判断ができる				
	観点③ ○レポート作成を通じて自己の学習状況を振り返り、学習に対する自己調整ができる ○他者との交流から、課題解決への意欲・課題解決に向けた見通しをもつことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：国内・国際経済のしくみを理解し、諸課題の解決に主体的に取り組むための基礎的な能力を身に付ける				
	授業の進め方：基本的に担当者作成のテキストを使用し、ペアワークを多用します 注意点：進度がはやく、分量も多いので、高い集中力をもって授業にのぞんでください				
家庭学習	学習内容と進め方	予習よりも復習に力を入れてください。 授業で扱ったテキストの内容はその日のうちに見直すよと思います。 また、知識定着のために問題集を活用しましょう。			
	学習の目安時間・分量	通常時はその日に扱った授業内容を。考查前は問題集を活用しながら自分の納得するまで。 社会科は、勉強にかけた時間だけ成績が上がります。ただし、得意不得意の個人差があるので、自分に合った勉強のスタイルを確立してみてください。			
	学習状況の確認方法	原則毎授業の冒頭で、前回の授業の確認を行います。			
	成績評価との関係	上記の通り、社会科は勉強にかけた時間だけ成績が上がります。 家庭学習が考查の結果につながると思ってください。			
図書資料の活用等	○『朝日中高生新聞』をはじめ、複数新聞社の記事 ○映画『トゥルーマン・ショー』ほか、授業内で適宜映画や書籍を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題 第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 第3章 現代経済と福祉の向上 2 日本の中小企業と農業(中小企業) 3 国民の暮らし ~~~~~中間調査~~~~~
	5		
	6		第2章 現代経済のしくみ 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業(農業問題) ~~~~~期末調査~~~~~
2	9	教科書 副教材	第3章 現代経済と福祉の向上 4 環境保全と公害防止 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 ~~~~~中間調査~~~~~
	10		
	11		第2章 現代の国際経済 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー 6 経済協力と人間開発の課題 ~~~~~期末調査~~~~~
	12		
※大学入試の受験科目で公共・政治経済を使用する(/予定の)生徒は、担当者に声をかけてください。			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	特進文系	3	山本
教科書	数研出版 数学B※統計の学習の際に用いる				
副教材	4STEP 数学Bおよび教材プリント				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書の100%の理解を目指す。入試問題においての土台となる部分を確実にマスターできるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①を踏まえ、より実践的な取り組みをする。例えば、教科書章末問題や複合的な問題の解法などができるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 受験生としてあるべき姿で取り組んでください。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 10点				
授業のねらい・進め方・注意点	1学期の序盤は数学B「統計的な推測」を学習します。その後、共通テスト対策に移ります。 共通テスト対策においては「誘導に従って問題を解く」流れを身に着けましょう。 共通テストは時間制限の厳しい試験です。教科書に載っている知識は呼吸と同じレベルで自然なものとして定着させなければなりません。復習に全力で。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあけて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。			
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいのか間違っていたのか確認し、振り返りを行うこと。			
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。			
	成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけでなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書および4STEP	統計的な推測
	5		
	6		
2	7	これまでの内容を復習できる各自の参考書およびこちらが用意する教材	共通テスト対策
	8		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	特進文系	2	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1			○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)
	4		○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	7		
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	11		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
3	12		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎	特進文系	2	齋藤
教科書	化学基礎academia				
副教材	アクセスノート化学基礎				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
	観点④ 探究力 問題 単元ごとの問いについて、自ら問いを立て、調べたり考察したりする。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① セミナー化学基礎＋化学における基礎知識 授業中に扱った基礎知識				
	観点② 単元における発展的な内容				
	観点③ 提出物				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容と進め方	問題集「セミナー化学基礎＋化学」をテスト前だけでなく普段から授業で学習した箇所を随時復習として解くこと。 また、完全に解け、解説できるまでやりきることを。			
	学習の目安時間・分量	テスト前に一気にまとめていると週6時間の授業なので間に合わない。毎回の授業をその日のうちに簡単でも良いので復習するよう心掛けること。 定期考査日(指定日)に教科担当者に提出。			
	学習状況の確認方法	定期考査日(指定日)に教科担当者に提出。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

※ 授業の進度により、多少変更することもあります

学期	月	教材	内容
1	4	化学基礎	イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 分子からなる物質の性質を理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。
	5	2章 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合 4節 化学結合と物質	
	6	5章 1節 物質と化学反応式	
2	7	6	原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を学ぶ。 物質と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。
	9	2節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係およびpHについて理解する。
	10	3節 酸化還元反応	中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。 酸化・還元の見方を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。
3	11	12	
	1	3節 酸化還元反応	酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。
	2	演習	酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 共通テスト対策の演習
3	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3年	理科	生物基礎	特進文系	2	水庭
教科書	・高等学校 生物基礎 第一学習社				
副教材	・プロGRESS生物基礎 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① プロGRESS生物基礎 授業中に扱った基礎知識				
	観点② 単元における発展的な内容				
	観点③ 提出物				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容と進め方	問題集をテスト前だけでなく普通の授業で学習した箇所を随時解くこと。また、完全に解け、解説できるまで繰り返し取り組むこと。			
	学習の目安時間・分量	毎回の授業をその日のうちに復習するよう心掛けること。一日30分以内を目安とする。			
	学習状況の確認方法	定期考査日(指定日)に教科担当者に提出。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	3章 ヒトの体の調節
	5		4章 植生と遷移
	6		
	7		
2	9	プリント課題	5章 生態系とその保全
	10		入試問題演習
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	理III生物	特進文系	2	水庭
教科書	・高等学校 生物 第一学習社				
副教材	・セミナーノート生物 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関するレポートを作成する。 必要に応じて小テストを実施する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。				
	観点③ レポート・小テストの内容を元に判断する。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。 進度・状況に応じて授業で取り扱う順番を変更する可能性がある。				
家庭学習	学習内容と進め方	提示された問題集を最低1周、可能な限り2周以上、手を動かして解く。			
	学習の目安時間・分量	各授業ごとに20~30分程度の復習を推奨。各考査前は時間ではなく、問題集を繰り返し取り組む。			
	学習状況の確認方法	各考査で授業担当者に課題を提出をする。			
	成績評価との関係	観点③として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・プリント	3章
	5		4章
	6		5章 6章
	7		7章
2	9	プリント	8章
	10		9章
	11		10章
	12		入試問題演習
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	ECIII	特進文理	4	久保田 祐正
教科書	FLEX ENGLISH COMMUNICATION III (増進堂)				
副教材	英語長文読解 プラクシス(Praxis) Level 4 (Z会)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>*テキストの英文・設問に対応できるだけの語彙力、英文解釈力が身につく</p> <p>*設問の解法を、本文設問を通じてマスターする</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>*テキストに基づく別形式出題にも対応できる</p> <p>*初見英文でも、同じ読み方、解き方で対応できる</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>*授業内外の課題に、手を抜くことなく取り組んでいる。</p> <p>(この項目は正解点数ではなく、取組状況のみで評価する)</p>				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>Stage 1では「読解のアプローチ」に関する講義を行ったうえで、サポートノートでPre-Useして予備知識、導入を図ります。それから本文問題に取り組みます。解答解説については、先に冊子を渡しますので、各自で確認、解き直しをすることが基本です。授業では冊子で触れていない知識や考え方を伝えることがメインになります。</p> <p>Stage 2では先に本文問題に取り組み、解答解説に入る前に、サポートノートをAfter-Useして知識を補強した後に、もう一度本文問題をやり直します。その先はStage 1と同じです。</p> <p>Stage 3は仕上げになりますので、本文問題から解答解説、最後に知識整理としてサポートノートを使います。</p> <p>なお、12月までにすべてを授業でこなすのは不可能なので、1・2年次とは異なり、相当量の授業外課題を出すことにはなります。</p>				
図書資料の活用・探究へのつながり	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	Stage 1 - 1	サポートノート知識を得た上でよいので、しっかり本文を読み、問題を解き、正答率を上げることで「大学中上位レベルの入試英文が解ける」成功体験を身につける	
		Stage 1 - 2		
		Stage 1 - 3		
	5	Stage 1 - 4		
		Stage 1 - 5		
	6	Stage 1 - 6		
		Stage 2 - 1		各英文を①素で読む ②サポートノート知識を得てやり直すの2段階を踏むことによって、自分が長文を読むうえで何ができている、欠けているを把握し、後者を補強する意識を持って学習する
Stage 2 - 2				
Stage 2 - 3				
7	Stage 2 - 4			
	Stage 2 - 5			
2	9	Stage 2 - 6	常に本番を意識して取り組む。この段階でスムーズに読めるようにするために、Stage 1と2があるということは、4月当初から常に覚悟しておくこと	
		Stage 3 - 1		
		Stage 3 - 2		
	10	Stage 3 - 3		
		Stage 3 - 4		
	11	Stage 3 - 5		
		Stage 3 - 6		
12	(終了後 大学入試演習等)			
	3	1	大学入学共通テスト	国公立志望者はここでアドバンテージを、私大志望者はここで滑り止めを確保
2			私大一般選抜 国公立二次試験	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理表現III	特別進学	4	石井
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 入試必携英作文 Write to the Point、共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、客観式問題に解答することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法知識を応用して初見の問題に対応できる。また、正しい英文を作ることができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 小テスト、課題、ペアワーク等の活動に積極的に取り組んでいる。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 文法・語法に関する4択問題(テキストベース)中心				
	観点② 正誤・整除作文及び和文英訳(テキストベース)、初見問題				
	観点③ 小テスト、課題、他諸活動への取り組み				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験に向けた、英文法分野の実践的演習。解答の根拠となるポイントを自分で考えながら問題を解く力を養うことを目的とする。 ・培った文法知識を運用して正しい英文を書くことを目的とする。 ・原則予習は課さず、授業内で問題演習し、解答解説を行う。 				
家庭学習	学習内容と進め方	授業で扱った問題を解き直ししながら、解答の根拠やキーとなる文法事項や表現の定着を図る。また課題や小テストに取り組む。			
	学習の目安時間・分量	30分程度(復習のみの場合) その日の授業分。課題や小テストが課されているときは、すべて完了するまで行う			
	学習状況の確認方法	テキストの問題が根拠をもって答えることができるかどうか。また、該当事項を含む初見問題(BrightStageを推奨)に対応できるかどうか。			
	成績評価との関係	課題・小テストに関しては観点③に加味する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 1 ~ 2 1主語の決定(1) ~ 2主語の決定(2) 第1回、第2回、第3回、第10回
		5 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 3 ~ 4 3目的の表現 ~ 6時制(2) 第11回、第12回、第4回、第5回
	6	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 5 ~ 6 7動詞の語法 ~ 8関係代名詞・関係副詞 第6回、第13回、第14回、第15回
		9 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 7 ~ 8 9時間の表現 ~ 10数字の表現 第7回、第8回、第9回、第16回
		10 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 9 ~ 10 11仮定・条件の基本 ~ 13比較の基本 第17回、第18回、第19回、第20回
		11 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 11 ~ 12 14比較の応用 ~ 17.重要表現(2) 第21回、第22回、第23回、第24回
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英語演習Ⅰ	特進	2	太田
教科書	なし				
副教材	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習 (数研出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 各Clueの学習事項を習得し、実践問題ができています。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 各Clueの学習事項を、別の英文に対しても応用できています。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 毎回の英文和訳作業に、能動的に取り組んでいる。 予習教材にきちんと取り組んでいる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① テキストで扱った問題を扱う。				
	観点② テキストで扱った問題の中でも応用的なもの、もしくは類題を出題する。				
	観点③ 授業の予習への取り組み、授業内の小テスト。				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習必須。予習前提で授業を進める。 ・例題は先に授業で解説→演習問題は予習という流れで進める。 				
家庭学習	学習内容と進め方	予習をしてくる。授業で解説を行う。それを踏まえて、音読をしながら復習を行う。その際に、授業で扱った内容を復習する。			
	学習の目安時間・分量	予習に30分～1時間程度、復習に30分程度。			
	学習状況の確認方法	自分で問題を黙読し、構造や訳語まで含めて、正確に英文が理解できる。			
	成績評価との関係	観点①で授業で扱った問題はそのまま出題されるので、直結する。 解説で扱った知識が②③で問われるので、関係する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	辞書の活用が可能。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		Clues to Reading 英文和訳の徹底演習	1 基本構造を見ぬく(1) 2 基本構造を見ぬく(2) 3 注意すべきthatの用法を見わける 4 注意すべきitの用法を見わける 5 関係代名詞は代名詞(1) 6 関係代名詞は代名詞(2) 7 意味上の主語を見ぬく 8 文末の分詞構文を見ぬく
2			9 比較対象を見ぬく(1) 10 比較対象を見ぬく(2) 11 名詞構文を見ぬく 12 倒置を見ぬく(1) 13 倒置を見ぬく(2) 14 省略を見ぬく 15 その他重要事項
3			

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材 教具	<ul style="list-style-type: none"> □ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>